



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

9月号

令和7年 9月 1日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



日常のひとつひとつを大切に、リオ日学の教育を進めます

～ 当たり前の素晴らしさをかみしめて、言葉で相手に思いを伝えましょう ～

いよいよ9月です。学習に行事に、充実の時を迎えます。今年は寒い日が続き、朝晩の冷え込みと日中の暖かきの気温の差が大きく体調を崩しやすい時期です。日常の学びを大切に、安全と健康を第一にリオ日学の教育を進めてまいります。

皆さまのご協力をよろしくお願いします。以下、取組の紹介です。

<中南米日本人学校とのオンライン合同授業>



深い学びや思考力を育てるために、中南米日本人学校と協力して、オンライン合同授業を実施しています。

今回は小学部3・4年生がサンチアゴと合同道徳授業をしています。自分の意見を言うことは気持ちの良いものです。

<生きた英語を学ぶ取組>



ブラジルで暮らすからこそ、語学に力を入れたいものです。生きた英語を学ぶ学習で「朝英語」の時間に英語の歌を歌ったり、英検対策の学習をしています。

<食育・楽しく食べながら学ぶ>



月・火・木のセイアさんが作る昼食はみんな大好き。「残さず食べよう・好き嫌いを減らそう」。美味しく学べ、温かな会話に包まれ、お腹もいっぱい、最高です。

<安全対策に気を配ることはありません>



毎月1度、あらゆる場面を想定して避難訓練を実施しています。教室・体育館・特別教室、どこにいても慌てず命を守るための行動ができるようにしています。

○全校朝会校長講話（9月1日）より

2001年9月11日。何の日かわかりますか？

アメリカで起きた同時多発テロの日です。ニューヨークの世界貿易センタービルにハイジャックされた旅客機2機が突っ込んでビルが倒壊し、3000人の方が亡くなり、そのうち343人は救助に当たった消防士だったというものです。

110階建て・415m、当時世界で一番高かったビルが、たったの11秒で崩壊してしまいました。その頃私は中学校の担任で、授業から戻ると職員室のテレビがつけっぱなしで大変なことが起きたと大騒ぎでした。

『最後だとわかっていたら(Tomorrow never comes)』という詩があります。この詩は救出作業の途中で亡くなった29歳の消防士が生前に書いたもので、SNSを通じて世界に広まり有名になりました。

I hope we never will forget.

Tomorrow is not promised to anyone.

「私たちは忘れないようにしたい。明日はだれにも約束されていないのだ」

For if tomorrow never comes,

you'll surely regret the day.

「もし明日が来ないとしたらあなたは今日を後悔するだろう」

So you'll always hold them dear.

「だから、いつでも、いつまでも、大切な存在だということを伝えよう」

Take time to say I'm sorry, Please forgive me,

Thank you, It's okay.

「“ごめんね”，“許して”，“ありがとう”，“気にしないで”を伝える時を持とう」

And if tomorrow never comes,

you'll have no regrets about today.

「そうすれば、もし明日が来ないとしても、あなたは今日を後悔しないだろうから」

この詩には、今の私たちが大切にしなければならないメッセージが込められています。この詩と出会ってから、慰霊碑のあるニューヨークに行ってみたくて願い、冬休みに実現しました。グラントゼロと名付けられた慰霊碑に黙礼し、亡くなった方の魂を悼みました。911メモリアル（博物館）に入ると、ビルを支えていた鉄骨が残り、焼けた消防車やエレベーターの巨大モーターなど、心が痛みます。なぜ人は憎しみ命を奪う行為をするのか、今世界で起きている悲しい現実がいまだに無くなっていないことに憤りを感じます。

No day shall erase you from the memory of time.

「いかなる日もあなたを時の記憶から消し去ることはない」モニュメントに書かれた言葉を大切にしたいと思いました。

人間は悲しみを乗り越えるために何をやるのでしょうか？先の詩は、アメリカ人・ノーマ・コーネット・マレックさんが作者で、不慮の事故で10歳のお子さんを亡くした時の悲しみを描いたものであるとわかりました。言葉に表すことで悲しみと向き合えたのでしょう。グラントゼロにオキユラスという駅ビルが建てられ、中にストリートピアノが設置され道行く人が弾いたり歌ったりするそうです。ピアノは木曜日のみ設置されるそうで、John LennonのImagineを歌ってみたかったのですが、私が行った日はありませんでした。きっと、音楽の力は人の心を柔らかくしてくれるはずです。

当たり前すぎて見えなかった「日常」の素晴らしさ、「ありがとう・いってきます・ただいま」など言葉の大切さを、これからの生活に意識しましょう。